

2.1.5 自噴高調査

本調査は、第 5 回委員会(平成 14 年 3 月 24 日)までに 2 回実施されているが、前回委員会での“地下水ポテンシャルに係る諸調査は可能な限り継続実施する”との方針から、代掻き前の低水位時期(平成 15 年 4 月末)に実施した。

庄川扇状地・扇端部に位置する高岡市街地周辺から小矢部川右岸域にかけてと、庄川右岸・大門町周辺から射水低地にかけての地域では、地下水位(頭)が地表面よりも高い自噴井戸が数多く分布しており、いわゆる「自噴帯」を形成している。アンケート調査や既往の井戸分布調査等で確認された自噴井戸(過去に自噴していたものを含む)を図 2.1-22 に示す。

また、庄川と小矢部川に挟まれた高岡市街地周辺の自噴井戸を対象に自噴高の測定を行った。調査箇所は図 2.1-23 に示した 34 箇所であり、平成 14 年に冬期と夏期の 2 回実施しており、平成 15 年は 4 月に実施した。

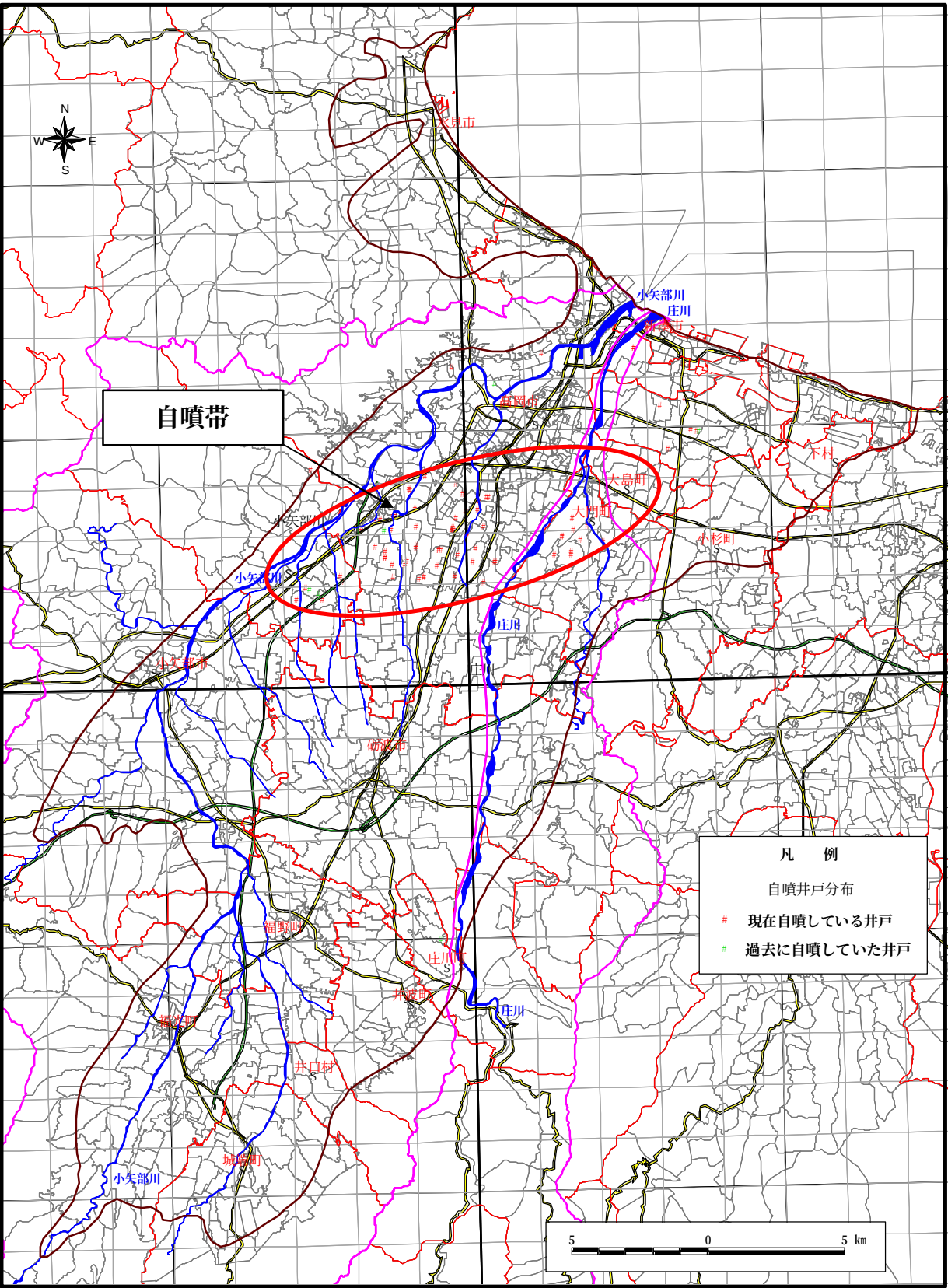
第 1 回目：平成 14 年 2 月 23 日～25 日

第 2 回目：平成 14 年 7 月 25 日～26 日

第 3 回目：平成 15 年 4 月 25 日～30 日

調査結果を表 2.1-6 に示す。

- ① 測定された自噴高は 20cm～1m 程度であるが、場所によっては 1.5m 以上の高い自噴高を示す井戸もある。全体として自噴高は庄川左岸から小矢部川にかけての地域で高く、庄川右岸・大門町周辺では圧力は低くなっている。
- ② 自噴高が 1.0m 以上を示す井戸は千保川と小矢部川に挟まれた地域に分布しており、3 回の測定結果においてもほぼ同様の範囲を示している(図 2.1-23)。
- ③ 過去 3 回の測定結果を見る限り、自噴高の季節変化に明瞭な傾向は見出せなかった。ただし沿岸部・射水低地の自噴井戸では、冬期に消雪揚水による影響で自噴が停止する状況が認められた。また深い井戸ほど自噴高が大きくなる傾向がある。



自噴井戸分布図

図 2.1-22 自噴井戸分布図